

学長就任挨拶

原稿受付 2012年5月7日
ものづくり大学紀要 第3号 (2012) 1~2

稲永 忍

ものづくり大学 学長

この度、神本武征前学長の後任として、ものづくり大学の学長を拝命いたしました。平成13年の本学創設以来、先輩諸氏が築き上げてこられた実績を大切に、皆様からの信頼とご支援をいただきながら、我が国の発展に欠かせないものづくりの振興と、ものづくりを現場で支える、高度な技能をもつ技術者の育成に全力を尽くしてまいります。



さて、昨年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの人命が奪われると共に、社会基盤も壊滅的な被害を受けました。また、巨大地震に伴う東京電力福島第一原子力発電所の損壊事故は、放射性物質の大量流出や電力不足等を引き起こし、世の中に安全神話がないことや、現代人の生活が何によって支えられているのかを人々に知らしめました。私は、恥ずかしながら、我が国の海岸線に沿って原子力発電所が54基あり、それらが総発電量の約30%を生産していること（電気事業連合会HP）を、このとき初めて知りました。

東日本大震災は環境の改変・破壊を通じて築かれた現代文明に対する警鐘です。一方、大震災以前から、東日本を含めて日本全体は社会変革を必要とする状況にあるといわれてきました。したがって、大震災の被災地を中心とした復興にとどまらない、日本全体を対象とした新たな地域づくり、社会づくりを構想する必要があるといえます。昨年、政府が設置した東日本大震災復興会議も、こうした認識の下、社会が「自然と共に生きる持続可能な好循環システム」を基盤としたものへとパラダイムシフトすることを提唱しています。今後における電力生産のエネルギー源についても、こうした観点から、原子力に引き続き依存するのか、あるいは原子力の代わりに太陽光や風力、地熱等を活用するのか、十分に議論を重ねる必要があります。

加えて、原子力利用のいかんに関わらず、原子力発電所の廃炉事業を今後数十年以上にわたって継続する必要があることも指摘しておきたいと思えます。以上のことと並行して、太陽光・風力・地熱発電等の効率化、建物・電気製品等の省エネルギー化、電池の高性能化、直流の利用拡大、エネルギーや水の生産・分配のスマートグリッド化等をいっそう加速させる必要があります。また、世界経済の動向は、わが国のものづくり産業が生き残るには、製品の高機能化、システム化、ソフト化などが欠かせないことを示唆しています。

本学は、他に誇れる、現場に強い製造学科と建設学科とが一体となって、自然エネルギー

一の活用や省エネルギー化、廃炉等に照準を合わせた教育研究を、今後さらに強化したいと考えています。その成果については本紀要等で逐次公表しますので、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。
